

平成26年度 部局自己評価報告書(図書館)

Ⅲ 部局別評価指標

- 1 東北大学グローバルビジョンにおいて各部局が定めた「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策または部局第2期中期目標・中期計画における特色ある取組の進捗状況と成果**
※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

1 学術情報整備計画の促進<部局ビジョンから>

従来、図書館商議会で検討してきた本学の学術情報（電子ジャーナル・データベース等）整備計画の検討を継続するとともに、わが国の国公私立大学における学術情報の安定的・継続的確保と提供を目指す大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）と連携・協力しつつ、ワールドクラスへの飛躍に相応しい研究環境の将来展望を検討する。（Vision 2：研究関連）

教育・研究に必要な電子ジャーナルパッケージ及びデータベース合わせて40種類を整備し、全学的基盤経費と部局負担経費により導入している。平成27年度には約1億円の増加が見込まれることから、学術情報整備検討委員会で購入形態の見直しを開始した。パッケージ契約から個別タイトル契約に変更する方針により Elsevier 社との交渉を開始した。

2 機関リポジトリによる教育・研究成果の発信<部局ビジョンから>

東北大学機関リポジトリ（TOUR）の整備・充実を図るとともに、2013年度分から電子的公開が義務づけられた学位論文について網羅的収集を実施する。（Vision 2：研究、Vision 5：社会学連携関連）

東北大学機関リポジトリ（TOUR）では、紀要論文、学術論文及び学位論文等の学内の教育・研究成果を電子的に公開している。平成25年度は、約1,500件のコンテンツを公開し、登録総数は約47,000件となった。これは、全国第4位の登録件数であるとともに、ダウンロード数は第1位を誇るものである（朝日新聞出版社「大学ランキング2015」による）。平成26年度からはインターネット公開が原則となった学位論文の登録促進のための取り組みを行っている。

3 各図書館での学習環境の整備<部局ビジョンから>

附属図書館本館改修によるラーニング・コモンズ整備（2012～2014年度）、青葉山新キャンパスにおける新図書館の整備（2014年度～）に引き続き、医学分館・北青葉山分館・工学分館についても、主体的な学びと知的交流に最適な場への整備を図る。（Vision 1：教育関連、Vision 6：キャンパス関連）

本館改修工事により事務室を集約して新たに創り出したスペースをグローバルフロアの一部に転用した。改修工事中の1号館の図書館機能を代替するべく、2号館の臨時開館による図書館サービスの続行により、学生の学修及び教員の研究を支援し続けている。

グローバルフロアにはグローバル学習室とグローバル資料室を設け、グローバルラーニングの促進を図る。

医学分館では、ラーニング・コモンズ整備による学習環境と老朽化した設備等の向上を目指して、平成27年度概算要求をしている。同様に、工学分館及び北青葉山分館においてもラーニング・コモンズの整備へ向けて準備中である。

平成21年度から実施している学生用図書整備事業として、平成25年度は目標の18,000冊（学生一人あたり一冊）を上回る約19,777冊を整備した（貸出総冊数の約6割が当該図書）。これら新刊の基本的学習図書のほか、英語多読学習授業のためのリーダーズ、院生のための専門書等も整備した。また、毎年恒例の学生選書企画による選定も実施し、学生のニーズに沿った図書を整備している。

4 社会・地域への知の還元<部局ビジョンから>

図書館所蔵資料を最大限に活用した知を還元する活動（展示会・講演会の開催等）を実施するとともに、地域の観光資源となりうる常設的な展示会場の実現を図る。（Vision 5：社会学連携関連）

平成25年7月のオープンキャンパスにおけるイベントとして、マルクスの自筆資料（『資本論』初版手沢本、『共産党宣言』自筆原稿）がユネスコ世界記憶遺産に登録されたことを記念して、本学が所蔵するマルクスの自筆資料4点の公開を行い、約8,800名の来館者に公開した。

ロンドン大学中央図書館において、「東北大学デイ」の一環として当館所蔵の「漱石文庫」を海外初公開した（平成25年11月21日～12月18日）。在英日本国大使館でも同様の展示会を開催した（平成26年1月9日～2月5日）。

5 東日本大震災記録の継承<部局ビジョンから>

永く後世に東日本大震災の記録を継承するために、震災ライブラリーによる資料の収集・保存・公開活動を継続する。（Vision 3：震災復興、Vision 5 社会学連携関連）

震災の記録を後世に引き継ぐとともに、震災の経験を学習、研究を通して社会に活かすために収集し、「震災ライブラリー」で公開している資料は、現在約3,600冊に達している。

このアーカイブ活動は、被災地の大学図書館、県立図書館及び国立国会図書館などとも情報交換を行いながら、連携・協力して実施している（図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」の中心的役割を果たしている）。